



未来をになう子どもたちに
仲間とつくり豊かな実践を

主催
全国児童養護問題研究会

後援(申請中)
愛知県教育委員会
愛知県社会福祉協議会
名古屋市教育委員会
名古屋市社会福祉協議会
中日新聞社会事業団

第49回

全国児童 養護問題研究会 全国大会

愛知大会

2022 6/25(土) 9:00▶17:30
※総会17:30~

開催場所 | _____
愛知リモート オンライン(Zoom)

大会テーマ

「子どもの最善の利益」を実現する生活づくり
〜いま、養護実践の専門性を問う〜

参加申し込み・問い合わせ

第49回 全国児童養護問題研究会 全国大会(愛知大会) 現地実行委員会事務局
名古屋文化キンダーホルト(担当者:岩田、武藤)

E-mail: aichi49@youmonken.com (問い合わせはメールをお願いします)

事務局住所 〒480-1103 愛知県長久手市岩作琵琶ヶ池50-1

全国児童養護問題研究会ホームページ <http://youmonken.org/>

開催期間

2022年 6月25日(土)

開催場所

愛知リモート オンライン(Zoom)

- ◆大会委員長：武藤 素明(養問研会長)
- ◆現地実行委員長：平井 誠敏(名古屋若松寮 寮長・名養連会長)
- ◆大会事務局長：岩田 正人(名古屋文化キンダーホルト)
- ◆大会事務局次長：山本 圭介(大野慈童園)/小尾 康友(ゆうりん)

開催スケジュール 9:00▶17:30 ※総会 17:30~

時間	内容
8:00~	Zoom入室開始
9:00~9:30	開会式(全体会) <ul style="list-style-type: none">・開会挨拶(会長)・オリエンテーション
9:30~10:30	基調報告、提言
	※参加者の方 zoom切り替え時間 10分
10:40~12:00	児童福祉講座
昼食タイム(45分間)	
12:45~14:45	分科会①
	※参加者の方 zoom切り替え時間 15分
15:00~17:00	分科会②
	※参加者の方 zoom切り替え時間 15分
17:15~17:30	閉会(全体会) <ul style="list-style-type: none">・大会総評(副会長)・大会現地実行委員会報告(現地実行委員長)・次回開催地挨拶
17:30~18:30	総会

■第49回 全国大会へのお誘い

本来からすると第49回全国大会は2年前に計画をしていましたが、コロナ感染の影響を受け大会を2年間止むを得ず中止としたところです。

このコロナ禍においても、子どもの自殺、児童虐待等の増加など子どもを取り巻く環境や状況はますます厳しい状況下であり、特に児童虐待問題は、よりその深刻さは増すばかりです。そんな大変な状況下においても、里親、社会的養護関係施設、児童相談所等子どもや家族に関わる分野の方々は、子どもたちの最善の利益を実現するために現場や家庭でご奮闘のことと存じます。また、社会的養護においては、現在、各都道府県・政令指定市において策定した「社会的養育推進計画」に基づき社会的養護の施策が推し進められています。

このようなコロナ禍の時期に、「子どもの最善の利益を実現する生活づくり～いま、養護実践の専門性を問う～」をテーマに、全国大会をオンライン方式にて愛知(名古屋)にて開催することと致しました。会員の皆様、また、会員でない方もオンラインにて集い、ともに子どもの最善の利益を実現するため私たちの専門性や協働のあり方について学ぶとともに、養問研らしさとしてオンラインでも全国の仲間が語り合い、交流出来る機会としたいと思っております。

多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

全国児童養護問題研究会 会長 武藤 素明

※所属および補職名は2022年3月時点のものです。

児童福祉講座

A

子どもの生活づくり～児童養護への招待～

愛知県:児童養護施設 名古屋文化キナーホールト 個別対応職員 武藤 佑太 氏

子どものために、まずできることは

施設の小規模化・地域分散化の方向性が進んでいます。生活単位が小規模化するということは、職員が子どもに関わる時間が増え、より丁寧なケアが出来ると思います。しかし生活単位が小規模化したからと言って、必ずしも子どもにとって最善の生活ではない場合もあります。では子どもにとっての最善の生活とは何だろうという事を、子どもの権利擁護という視点を交えながら、最善の生活を実現するためにできる事とは何かを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

B

豊かな人間関係づくり～援助者としてのそだちあい

愛知県:同朋大学社会福祉学部 准教授 宮地 菜穂子 氏

スタッフトレーニング(ST)プログラムを活用した“そだちあい”

施設職員や里親等、社会的養護に携わる支援者が一堂に会して学び合うことのできるスタッフトレーニングプログラムを活用した研修の取り組みをご紹介します。支援者自身を見つめ直しながら子どもの行動に着目して支援の在り方を整理していくという手法による“そだちあい”の可能性について考えていきたいと思っております。

C

青年期の自立支援

名古屋市:名古屋市立大学大学院 准教授 谷口 由希子 氏

多様な背景を抱える子ども期から「大人になる」こと～子どもの権利の観点から考える～

家族が抱える多様な背景やそれに伴う不利、その基盤にある構造的な不平等のもとで、子どもたちはどのように大人になるのでしょうか。ここで捉えたい「大人になる」ことは、働くということに留まらず、社会のなかで自分の人生をつくっていく主体になることを意味しています。本講座では、とりわけ不利な状況に置かれた子どもについて、子どもの権利の観点から考えます。

D

子どものケアニーズに応じた支援

福岡県：ファミリーホーム 土井ホーム 土井 高德 氏

虐待・非行・発達障害 困難を抱える子どもへの理解と対応

専門里親やファミリーホームで、長年にわたり被虐待体験や非行歴のある子ども達を受け入れてきました。その傍ら、研究・執筆・講演活動を通じていわゆる「ケアニーズの高い」子どもや青年への関り方の発信を続けています。施設の高機能化が求められケアの担い手にかかる負担が増す中、これらを軽減するヒントを参加者と共有します。

E

今後の社会的養護のあり方

東京都：児童養護施設 子供の家 施設長 早川 悟司 氏

子どもの地域生活を支える施設や里親等の役割

児童虐待の報道が過熱する中、各都道府県は社会的養育推進計画を策定し、児童養護施設等の役割や機能の変容も求められています。制度や情勢を踏まえつつも数値目標ありきではなく、子どもを地域生活の主体者として尊重するために今後の施設や里親はどうあるべきかを考えます。

分 科 会

第1分科会 | 子どもの生活づくり

① より良い生活にするために ～支援の意図を考える～

<報告者> 大野 華鈴 氏【岐阜県】児童養護施設 大野慈童園 保育士

結婚・定年等の理由から、ベテラン職員が退職し若い職員集団となりました。そんな中、支援の意図を十分に理解しないまま、既存の日課やルールを「やらせなければならない」「守らせなければならない」という関わりが増え、子どもとの衝突やその対応の結果を職員個人の力不足や責任にしまい、職員のバーンアウトに繋がりました。職員のチームワークによる支援の連続性と子どもと関わる職員が支援の1つ1つに意図を持つことの重要性を感じ、現在見直しに取り組んでいます。その方法について、考えてきた事と実践してきた今までを振り返り、ケアワーカーの支援の在り方について考えていきたいです。

② 対話を大切にした子どもの生活づくり

<報告者> 原田 裕貴子 氏【大阪市】すみれ乳児院 家庭支援専門相談員

すみれ乳児院は本格的に小規模グループケアへ移行し、その生活に慣れてきたころにコロナ禍へ。コロナ禍での生活を立て直すとともに、顕在化してきた課題に向き合っています。そんな中でも子どもの生活や意志を尊重するためにできることを一緒に考えたいです。

第2分科会 | 豊かな人間関係づくり ～援助者としてのそだちあい～

① 名古屋市子どもの権利擁護委員会での取り組み ～援助者としてのそだちあいに向けて～

<報告者> 野村 康夫 氏【名古屋市】児童養護施設 名古屋若松寮 業務課長

「名古屋市子どもの権利擁護委員会」は各施設の委員が4つのグループに分かれ、グループでの活動を実施。1グループは乳幼児版の子ども権利ノート「たいせつなあなた」の作成・活用方法、2グループは各施設が実施している「ヒアリング」「職員間のコミュニケーションスキル」について、3グループは全養協「人権擁護養護チェックリスト(職員版)」の分析、4グループは日常生活場面で対応に困る事例検討集「こんなときどうする?vol.1」を作成しています。各グループで取り組んでいる活動報告を行います。

② 『人材』を『人財』と捉えたマネジメントシステムの展開

<報告者> 中村 里美 氏【福井県】児童養護施設 一陽 ケアワーカー
霜 大輝 氏【福井県】児童養護施設 一陽 人材育成室長

養育の実践において、不安定な子どもたちを支える養育者の支援の充実がなければより子どもたちを取り巻く環境が不安定なものになってしまいます。そこで、一陽では「ディーセントワーク(尊厳ある労働)」をベースにした人財マネジメントシステムを展開しています。人材的「負のスパイラル」からの脱却を意識した一陽の実践を報告いたします。

第3分科会 | 青年期の自立

① 名古屋市における自立支援の現状について

<報告者> 稲垣 恵氏【名古屋市】児童養護施設 那爛陀学苑 苑長

名古屋市の児童養護施設13か所に自立担当職員が配置され、どのような活動をしているのか、全施設配置となった経緯を含め、詳しくお話しします。また那爛陀学苑における取り組み、実際にあった相談からの支援についても自立支援担当より実践報告をします。

② 外国籍の子どもへの支援:施設生活経験者と支援者の視点から

<報告者> 滝澤 ジェロム氏【東京都】児童養護施設 子供の家 児童指導員(施設生活経験者)
長棟 李奈氏【岐阜県】児童養護施設 合掌苑 ユニットリーダー

2018年の入管法改正に伴い、今後、外国籍の子どもの施設入所が増加することが予想されます。そこで、この分科会では社会的な動向をふまえて、外国籍を持つ子どもがどのような困難に直面しているか、および、必要な支援とは何かについて、外国籍の施設経験者と支援者双方の視点から報告します。そして、参加者とも意見交流しながら深めていきたいです。

第4分科会 | 子どものケアニーズに応じた支援 ~これからの家庭的養護~

① 児童心理治療施設における『日常生活支援』と『治療』

<報告者> 池戸 裕子氏【岐阜県】児童心理療育施設 桜学館 児童指導員 生活部長

社会的養護を必要とする子どもたちのケアニーズは年々複雑化してきています。家族、地域から離れ施設に入所することとなった子どもたちのケアニーズをいかに的確にとらえ、それを施設での支援にどう組み込んでいったらよいか。そのためには「アセスメント」が重要であると日々の実践で感じています。分科会では、アセスメントを通して子どもとその家族のケアニーズを多面的にとらえ支援にどのように組み込んでいるか、桜学館での実践を報告させていただきたいと思います。

② 児童養護施設における家庭的養育の現状と課題 ~高機能化に向けて~

<報告者> 奥野 真紗美氏【名古屋市】児童養護施設 ゆうりん リーダーケアワーカー

児童養護施設が児童相談所から受ける入所打診の内容として、昨今では児童自立支援施設や児童心理治療施設からの措置変更、社会適応が困難な児童等が増加の傾向にあり、子どものケアニーズに応じた支援をするために施設の多機能化・高機能化へと早急な変化が求められています。児童養護施設でどのような支援が必要とされているのか、過去に試行錯誤しながら関わったケースを基に、家庭的養育をベースにした今後の養育の可能性と地域連携の視点から考えたいです。

第5分科会 | 今後の社会的養護のあり方 ~地域における協働~

① 保育の領域をひろげ、社会的役割を考える

<報告者> 加藤 雅美氏【名古屋市】社会福祉法人新瑞福社会 たんぼぼ保育園 園長

保育所にはさまざまな家庭の子どもたちが入所しています。保護者の就労はもちろん、子育て支援の役割も担っています。2013年から実施している24時間緊急一時保育の実践を通して、今保育所に求められる社会的な役割や連携について、みなさんと考えたいと思います。

② 母子生活支援施設における家族支援と関係機関との連携

<報告者> 加藤 智功氏【岐阜県】母子生活支援施設 きーとす岐阜 リーダー・少年指導員

まず、母子生活支援施設の機能や支援内容を紹介したうえで、具体的なケース(DV・外国籍ケースなど)をもとに、法的な知見をふまえた支援の流れや必要な手続きについて解説します。そして、関係機関や乳児院・児童養護施設などとの連携(家庭引取りや母子分離)のあり方について、参加者とともに考える機会にしたいです。

参加費 開催日:6月25日(土)

参加種別	参加費	年会費
会員	4,000円	4,000円
一般	6,000円	
学生	1,000円	

参加費をお支払いいただいた方に、事前に当日資料をメール等にてご案内します。

※「会員」の方は参加費に年会費を加えてお申込み下さい。
(年会費には『社会的養護研究 第2号』の代金含む。)

参加申し込み方法 5月31日(火)「最終×切」

- ①第49回全国児童養護問題研究会(愛知大会)参加申し込みフォーム(以下、申し込みフォーム)で申し込み下さい。その際には、必ずメールアドレスが必要です。
- ②施設等で団体参加される場合も、1名ずつご記入ください。
- ③申し込みフォームからお申込みいただき、正しく受付された場合に自動送信で受付完了メールをお送りします。もし受付完了メールが到着しない場合は、正しく受付できておりません。入力されたメールアドレスを再度ご確認くださいとともに、念のため迷惑メールフォルダ等もご確認ください。その他、ご不明な際は事務局までメールでお問い合わせください。
《問い合わせ先》第49回全国児童養護問題研究会愛知大会事務局 aichi49@youmonken.com
- ④児童福祉講座・分科会は、定員によりご希望にそえない場合があります。必ず第2希望までご記入下さい。

申し込みフォーム

スマートフォン等より

右記、QRコードから参加申し込みフォームにアクセスして下さい。



URL

<https://forms.gle/FqC6Czn2jEyt3JieA>

参加費の振込み方法

- ①参加費・年会費の合計額を右記口座へ **5月31日(火)**までにお振り込み下さい。現金書留での送金は受け付けておりません。
- ②振込み後にキャンセルされる場合は、メールにて振込者名・所属をご入力の上、事務局まで送信して下さい。キャンセルの期日は、**6月17日(金)まで**とさせていただきます。期日までにご連絡をいただいた場合、振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。キャンセル期日を過ぎた場合、返金はいたしかねますが、資料は後日メールにて送信いたします。

振込み

参加費振込み期限:5月31日(火)

振込先: ゆうちょ銀行

【店名】 二〇八 (ニゼロハチ)

【店番】 208 普通預金

【口座番号】 2068909 (記号) 12050 (番号) 20689091

【口座名称】 全国児童養護問題研究会 愛知支部
(ゼンコクジドウヨウゴモンダイケンキュウカイ アイチシブ)

《参加費のお振り込みに関するお願い》

振込の際、支払いされる方のお名前は、**できる限り個人名で**ご記入下さい。やむを得ず、施設名でお振り込みいただく場合は、法人名などを省いてご記入下さい。(頭文字12文字でお支払いされた方のお名前が分かるようにお願いします。)

(例) シャカイクシホウジン ナゴヤブンカキンダーホルト
→ キンダーホルト ○○○○○(氏名)

銀行の振込金受領書はお手元で保管ください。

《参加申込み後・受講に関してのお願い》

- ・お申し込みされた方には、ログインURL(接続先の情報)、および当日資料についてメール等にてご案内します。
- ・著作権等の関係上、参加者の方による講座の録画・録音・撮影、画面のキャプチャ、資料の転送・転載等のご遠慮下さい。
- ・当日の進行は記録のために事務局より録画させていただきます。ご了承くださいませようお願い致します。
- ・当日は安定したネット環境をご準備ください。Zoomについては事前にインストール等をし、動作の確認を行って頂く事をお奨めします。